

## 第 43 回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録

1. 開催日時 平成 30 年 7 月 9 日 (月) 午前 9 時～午前 12 時
2. 開催場所 ダイキンアレス青谷 会議室
3. 出席者氏名 出席者名簿のとおり
4. 会議の概要

### (1) (地独) 鳥取県産業技術センター第 3 期中期目標期間終了時見込実績報告及び平成 29 年度実績報告に関するセンターヒアリング

- ・センターから、説明資料に沿って説明後、質疑応答。

#### (主な意見)

- 技術相談が増加しているということは理解したが、今後どういう相談案件が増加していくのか、分析をしていくことが必要。また機器利用も同様であり、利用頻度の多寡分析を行いながら、必要な支援はセンターが声を出して、県に要望すべきである。

(センター) ⇒機器は全般的に老朽化しており、また、機器利用の問題はマンパワーの問題もあるため、現状が対応可能な上限であると感じる。技術スタッフの配置などを工夫しながら、何とかやりくりしているのが現状

- 県の経済成長戦略に示されている GDP 回復目標に対し、どこまでセンターが貢献できたか表現できないものか。

(センター) ⇒マクロ的な表現は困難と考える。むしろサポインなどを活用しながら、各種プロジェクトを動かしており、こういった数値の動きを成果として発現させていくことが重要ではないかと考える。

### (2) 第 4 期中期目標の策定に向けた論点整理に係る意見交換

- ・前回の評価委員会における委員意見を踏まえ、事務局において論点の整理方針(案)を説明した上で、意見交換を行った。

#### (主な意見)

- 第四次産業化革命への対応について、IoT・AIやロボット技術実装、企業内の人材が不足しており、早急に支援体制を整えて欲しい。ただ、センターだけで対応していくのは現実的ではなく、例えば「企画・販売分野」であれば産業振興機構と連携支援するとか、「技術開発分野」であれば鳥取大学と連携するなど、関係機関との連携体制構築が必要と考える。

(センター) ⇒ I o T ・ A I 技術実装に向けた支援体制について、産業振興機構が、先日、サポートセンターを立ち上げたところであり、センターも連携支援機関として貢献していく。本件に関しては県からも宿題をいただいております、早急にセンター内でも検討を進めたい。

- 他機関との連携について、産業振興機構との連携についての言及が無いので、地域での産業支援エコシステムを構築する観点からも、センター単独での支援では限界があるので、検討が必要と考える。
- 企業訪問件数を K P I とすることには賛成。センターの取組を多くに企業に知ってもらう意味でも意味のある指標ではないか。問題はプロモーションの仕方であり、センター固有技術の効果的なプロモーションが必要と考える。
- 中期計画の方向性は理解したが、その中でセンターはどのような役割を果たそうとしているのか、どのように貢献していくのか、あるいはすべきなのか、第4期に向けセンターでもよく検討して欲しい。  
(センター) ⇒ 第4期に向けた体制や予算、推進方針については検討に着手した段階であり、今後しっかりと検討を進めたい。
- 鳥取大学でも人材は十分に足りているわけではないので、第四次産業革命部分について十分な連携支援は現状では難しいと考える。県内だけではなく、産業技術総合研究所など県外機関の力を借りることも意識すべき。

#### ○その他

- ・ 会議冒頭に、事務局から今回の評価委員会での実績報告に係るセンター説明も踏まえた上で、各委員に実績評価(案)の記載を7月25日期限内で依頼したところ、了承された。